

マイナス推移ながらも改善の兆し。依然と材料価格の上昇傾向が見られる。

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど令和4年4～6月実績と令和4年7～9月期見通しについての調査結果（回答数89社、回答率89%）をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

業況DI値について、前年同月比の今期（令和4年4～6月期）の状況を集計したところ、業況判断DIは、全産業、各産業とも変わらず、マイナスで推移しているが、やや改善傾向にある。売上について、サービス業以外はマイナスながらも若干上向きつつある。仕入単価は、原油高騰などの影響からDI値が依然増加傾向である。仕入単価上昇について引き続き注意が必要である。

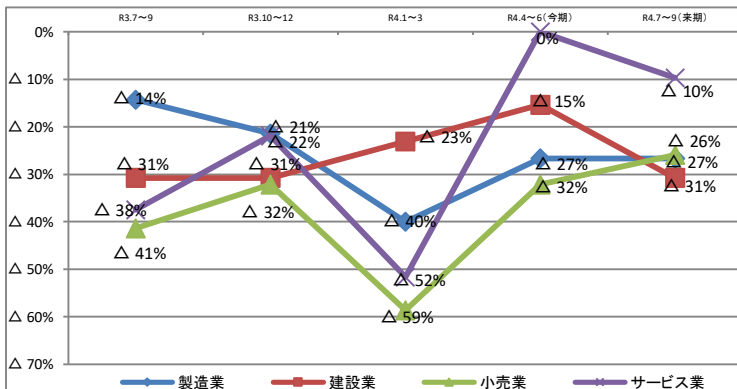
今期中に設備投資を実施した企業は全体の13%、来期設備投資を実施予定の企業は12%であり、前回調査と設備投資意欲に変化が見られなかった。

経営上の問題点については、全産業で原材料等の価格の上昇が上位に入っており、長期化するロシアのウクライナ侵攻や資源・資材価格の高まりによる業績悪化が懸念されており、来期（令和4年7～9月期）の見通しも厳しい見方となっている。

◆業況DI値（今期の状況）

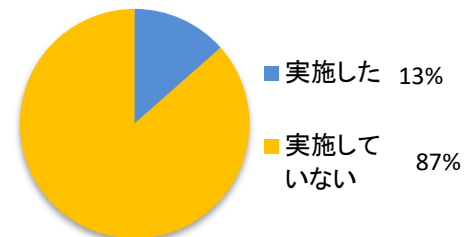
	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△ 18%	↗	△ 9%	↗	△ 18%	↗	53%	↗	△ 30%	↗	△ 6%	↗
製造業	△ 27%	↗	△ 20%	↗	△ 36%	↗	93%	↗	△ 33%	↗	△ 25%	↗
建設業	△ 15%	→	△ 8%	↗	△ 15%	→	62%	↘	△ 31%	↗	△ 8%	→
小売業	△ 32%	↗	△ 15%	↗	△ 25%	↗	36%	↗	△ 46%	↗	△ 4%	↗
サービス業	0%	↗	3%	↗	△ 3%	↗	43%	↗	△ 13%	↗	0%	↗

◆産業別業況判断DI（前3期からの推移と来期見通し）

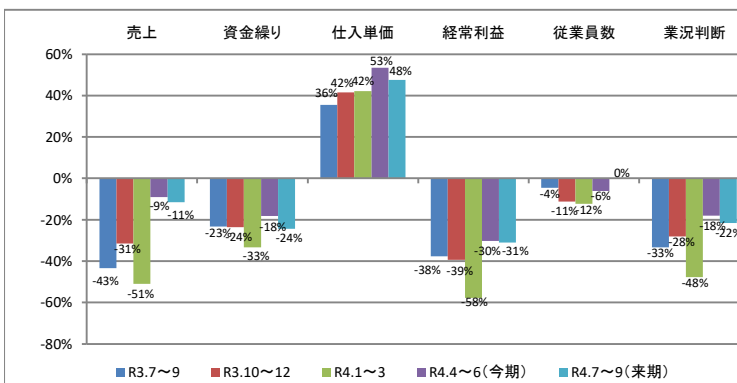


◆新規設備投資（今期実施・来期計画）

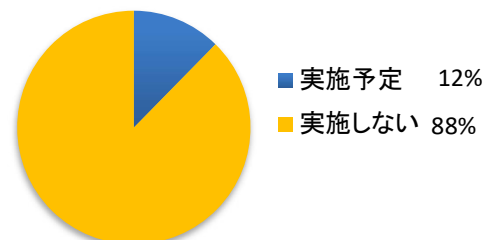
【今期設備投資】



◆全産業DI項目別比較（前3期からの推移と来期見通し）



【来期設備投資計画】



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	原材料価格の上昇 29.7%	材料価格の上昇 23.5%	需要の停滞 22.2%	利用者ニーズの変化への対応 16.0%
2位	需要の停滞 18.9%	熟練技術者の確保難 14.7%	仕入単価の上昇 15.3%	需要の停滞 14.8%
3位	生産設備の不足・老朽化 10.8%	材料の入手難 8.8%	消費者ニーズの変化への対応 13.9%	材料等仕入単価の上昇 12.3%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた値を示す。